

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100064		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム箱田		
所在地	前橋市箱田町206-4		
自己評価作成日	令和3年9月2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/10/index.php?action_kouhyou_pref
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所として特に力を入れているのは「健康は食から」という考え方で、調理スタッフ3名が、毎日手作りの食事を提供しています。又、弊社の基本理念の最初に掲げている「人格尊重の介護」を心掛け、その人らしくある為に、その持っている能力を最大限に生かし、知恵や経験に傾聴し、職員一同、温もりのある、笑顔のある施設の為、日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

きれいな月を全員で観たり、夕日がきれいな時は声を掛け合いながら鑑賞したり、季節を感じメリハリをつけた生活が過ごせるようにしている。管理者は、職員個々の理念についての理解状況等を把握するため、各項目ごとの思いをアンケートするとともに、身体拘束をしないケアについては、5禁止項目(上から目線の指示・命令・非難等)、4奨励事項(その都度きちんと答える・時間をかけて聴く等)の各項目について、職員個々に「出来ている・いない・できない理由」を提出させて、職員の意識づけとスキルアップを図っている。また、利用者の下肢筋力低下の防止策として、室内歩行練習・ラジオ体操等々、工夫した支援を行っている。コロナ禍での感染対策として、服装や事業所内を「清潔区域・感染区域」と色分けしたマニュアルを作成して、実践的な意識の共有化を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を見やすい所に掲示し、朝の申し送り時に唱和し、共有実践につなげています。	管理者は、理念を職員がどのように考えてケアしているのか、理念の項目ごとにアンケートをとり、職員の考え方や理解度を把握し、職員に振り返りをさせて、時々軌道修正や教育を行い周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんなど、運営推進会議に出席をしていただいたり、福祉大生の実習など受け入れております。	コロナ禍前は、職員には地域の方への挨拶を徹底し、近所の方に野菜やお花を頂いていた。お礼に写真を撮って「このように飾りました」と挨拶に伺っていた。コロナ禍で地域との交流がままならないが、地域の方から、励ましの手紙を頂いたことがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議出席の折、民生委員さんにホーム内の話をし、認知症への理解を得られる様お願いしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域や家族の方々からの意見を尊重し、サービスの向上に活かしております。	現在は、民生委員と家族3人の方から事前に意見を頂き、書面会議を行っている。会議の結果は、家族には事業所に来ていただき、民生委員・包括支援センター・市へは直接持参して報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方々の会議への出席を頂き、情報提供など頂いております。	運営推進会議は土曜日に開催するため市職員の参加はないので、管理者が結果報告に直接行っている。市役所にある施設案内カウンターのパンフレットがなくなると、市から連絡があり持参するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の後に、会議をする時間を設け、拘束のないケアを共有しています。	月1回職員会議を行い、スピーチロックや日常の介護状況から問題のある拘束につながる事案に関して話し合い、統一したケアに向けて職員全員で共有化を図っており、参加できなかった職員には、申し送りノートを活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	擁護権利推進員を中心に、不適切なケアの防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会を設け、それらを活用し支援していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明をし一度、契約書等を持ち帰って頂き、熟読して頂いた上で署名捺印をしていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	基本、面接時や推進会議出席の時に意見を伺っております。意見箱も設置してあるので、言いにくい意見などは、意見箱にお願いしています。	面会時に家族とコミュニケーションを取り、利用者のライフストーリー(自分史)を確認し、利用者の良いところや残存機能を活かした取り組みを行っている。感染拡大が落ち着いたら家族の協力を得て、家族参観日を設け、利用者との関わりを多く持ちたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、申し送り等で職員間の意見交換を行っております。	月1回の職員会議や日々の業務の中で、職員との意見交換を行っており、業務で使用するビニール手袋について意見があり、ビニール手袋の変更が検討されている。研修会への参加は積極的にすすめ、有給休暇の取得にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績・勤務状態を把握しながら、向上心を持って働ける様、心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに、内外の研修を受ける機会を設ける様、心掛けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一緒に研修を受けた同業者の方々や連絡を取り合い、サービスの向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを取る事が可能な場合は、本人の悩みや要望を傾聴し、信頼関係を築き、会話が不可能な場合は、基本情報、生活歴などを参考にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面会時に、ご家族の困っている事、要望等を聞き、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を基に、行動や言葉などから、対応方法を模索し、支援をする様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の持っている知識や知恵に耳を傾け、現在の状態が、少しでも長く維持出来る様、心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、職員では出来ない事を家族にしてもらうなどの協力関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	カルチャー教室で一緒だった方から、時々電話が来たり、こちらから掛けたりされています。	コロナ禍前は、以前一緒に働いていた方の面会や、馴染みの美容室の利用・買い物などが行われていたが、コロナ禍のため、今は月に1回位友人と電話での交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	好きそうなレクリエーションを一緒にしたり、気の合いそうな方同士で座ったりし、職員が会話の橋渡しをしたりします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子など、家族に聞いたり、訪問した際に、様子を見たりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人に聞き、把握に努めています。本人の意向の確認が難しい場合は、日々のかかわりの中で、家族の意向や生活歴を踏まえ、カンファレンスしています。	家族に利用者の生活歴や既往歴を伺い、職員間で共有し対応の仕方を考えている。また、子供の前では、いろいろなことが出来ると頑張ってしまう方の自尊心を傷つけない対応や、独語が多くなるとトイレに行きたいなどの行動や特徴を観察し、対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面談時、家族から馴染みの暮らし方や生活環境等の詳細を聞き、本人からは、ホームでの生活の会話の中での把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、日々の様子、職員からの聞き取り等で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎に見直し、アセスメントを基にカンファレンスを行い、課題やケアについて話し合っています。家族とは面会時、運営推進会議時にお話をし作成に反映しています。	ケアマネジャーは、利用者の状況を把握するとともに、訪問診療時の医師の意見等を参考に、アセスメントを行っている。モニタリングは3ヶ月ごとに行い、短期目標の見直しに繋げている。	サービス計画は具体的に記載されているが、各種記録がモニタリングへの整合性のある記録として反映できる記録となるよう、検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの個別記録を読み、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し、柔軟な支援やサービスなど、多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の挨拶から始まり、顔見知りになって言葉を交わしながらホームでの暮らしを理解、協力して頂ける様、働きかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族と話しをし、かかりつけ医師を決めています。月2回の訪問診療日に、日々のデータ等の情報提供しています。	事業所の協力医による月2回の訪問診療を、全員が受診している。必要に応じて、歯科医の訪問診療も可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時は勿論ですが、地域連携室の看護師さんとも相談し、適切な受診が受けられる支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されても安心して治療に専念できる様、病院の看護師やソーシャルワーカーとコンタクトを取り、情報交換や相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が発生するギリギリまで、ホームで見させて頂く事を、家族にも説明しており、チーム支援に取り組んでいます。	入居時に、家族には説明し同意を得ており、看取りはしていない。利用者の病状に合わせ、地域連携室に相談して、転院先を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルが用意されており、職員は、応急手当や初期対応の訓練を、少しずつ実践的に学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加で、消防署指導のもと、避難訓練を年2回実施しております。災害時には、近隣の方や民生委員の方々に協力を依頼しています。隣接する小規模多機能あずまにも協力をお願いしています。	年2回避難訓練を実施しており、夜間想定で、利用者と職員で、連絡の仕方や消火器の使い方などの訓練を行った。水害に備え、今後は隣接している建物の2階ベランダへ避難が出来るように交渉することを考えている。現在は、地域の方の協力は得ていない。	災害時の地域の方との連携を視野に入れた訓練を検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本理念に人格尊重を掲げていて、一人ひとりの人格を重んじ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをする様、職員はケアに取り組んでいます。	排泄誘導の際は、羞恥心を考慮した声掛けの仕方や、ケアをする際にも初めに声をかけ説明してから行うなど、職員は利用者に違和感を与えない行動を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションなどの場合でも、いくつかの選択肢を用意し、その中から自身が選び、自己決定していただく様になっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、入浴などその方に合ったペースで、希望に沿った支援を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、訪問理美容でカットなど行う。男性の方には、髭剃りの促しの声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせた食事を、調理スタッフが交代で作り、テーブル拭きなどを、利用者と職員と一緒にしています。	職員は、利用者と一緒に摂取しながら、利用者の状態を観察して、その方に合った食事形態を調理の担当職員に依頼して、食事がたのしいものになるようにしている。誕生会の時は、お祝いの言葉を寄せ書きして、写真を撮ったり、家族の手紙を読んだり、楽しい時間となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分補給は、個々に合わせて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に合わせた口腔ケアを実施。義歯の不具合などは、訪問歯科で調整して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンを把握する努力をし、時間誘導、パット交換を行っています。	排尿記録表などを参考に、排泄誘導を行っている。便秘の方への服薬の仕方などをカンファレンスで話し合い、投与方法の共有を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、体操、歩行練習などの運動及び乳製品の摂取も行っています。整腸剤の使用により、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本、午前中の中の入浴です。個々の入浴スタイルで楽しませております。入浴日以外は、足の清拭を実施しています。	週3回、入浴を行っている。職員は入浴の着脱介助に、1対1で関わっている。季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯等を提供して、家庭の雰囲気味わえるようにしている。拒否する時は、普段からのコミュニケーションを通して、個々の誘導の仕方を考えて支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや状況に応じて休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、二重のチェックを行い、誤薬がない様に注意しています。薬の内容については、主治医に相談し、現状に合った薬を処方して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物を畳んでいただくお手伝いをお願いしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、コロナ禍で昨年から外出行事が中止ですが、ご近所のお庭や公園のお花を見たり、敷地内を散歩しています。	コロナ禍前は、りんご狩り・ぶどう狩り・さくらなどの花見や、神社などに行っていたが、今は事業所の周りを散歩して、季節を感じる機会づくりを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物品等は施設で購入しています。基本、お金を使用される事はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方には、コロナ禍でなかなか面会が出来ないので、写真などを送ったりしています。お友達との電話も楽しんでおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽射しが差し込むホームで、テレビを観たり、雑誌を見たりできる大きなソファがあり、くつろげる空間になっています。	ホールは陽が差し明るい雰囲気、壁には利用者の写真が貼られ、季節の花が飾られるなど、居心地の良い環境づくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに仲良く座り談笑されたり、一緒にうたた寝されたり、一人でのんびりされたりと、思い思いの居場所となっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族からの手紙やひ孫さんの写真などを飾られたりして、居心地よく過ごす工夫を各自されています。テレビを持ち込んでいる方もいます。	居室には、孫や愛犬の写真・家族の手紙が貼られ、思い思いの馴染みのものが設えられて、安心して過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握して、それぞれの出来る事などをして頂いております。安全面を重視し、自立した生活が送れる様、生活支援をしています。		